過ごす方法を模索している。忙しさや時間のなさを理由にしたくないので、子どもが学校に行っている時間や寝ている時間にNPOの雑務や家事にいそしむ。リビングで仕事をしている時も子どもに話しかけられれば、なるべく手を休めてコミュニケーションを取るようにしている。

さまざまな仕事があり働き方がある中で「俺の仕事はそういうわけにはいかない」などと聞こえてきそうだが、定時で帰る努力をしてほしい。朝早めに出勤したり、出勤前にできることをしておく。部下や後輩に仕事を託す。メールの返信に時間を取られない。タスク管理、スケジュールを見直すなど、細かいことから始めてみてほしい。時には、有給休暇を活用して授業参観に行ってみてほしい。子育ては期間限定。仕事以上に壮大な「子育て」を大切にしてほしい。

片山　知行

（全国父子家庭支援連絡会代表理事・阿賀野市在住、題字も）

＝第2・4水曜掲載＝

触れ合い人間関係育む

ドラマケーション

就活や研修、広がる活用

「ドラマケーション」の指導者を養成する講座で、身体表現に取り組む受講生ら＝東京都新宿区

コミュニケーション能力の向上を目指し、芝居の要素を取り入れたユニークな教育法「ドラマケーション」が注目を集めている。これまで主に小中学校などで活用されてきたが、就職活動対策などにも用途が広がりつつある。

「必ず誰かの体に触ってくださいね。では、花を表現して。はい、ストップ」。大学生や教員など各地から集まった20〜50代の28人が、集団の中で触れ合いを感じながら身体表現を行う「ワンタッチ・オブジェ」に取り組んでいた。

ドラマケーション普及センター（東京）が実施した、「ファシリテーター」と呼ばれる指導者を養成するための認定講座の一場面だ。このほか、4人一組で腕を組んだまま行う鬼ごっこや、共通点を持つ仲間を探すゲームなど、遊びの要素を盛り込んだ多彩なメニューに挑戦していた。

ドラマケーションが本格的に取り組まれるようになったのは2007年ごろ。人間関係を育むことを目的とし、気軽に楽しくできるのが特徴だ。名称は、ドラマとコミュニケーションを組み合わせた造語。

これまでは、小中学生や高校生を対象に、集中力のアップなどを目的に実施されてきた。最近は、大学が就職活動に向けて、学生の自己アピール力向上のために導入したり、職場での良好な人間関係をつくるために企業が研修で活用したりしている。

同センターの講座は07年にスタート。現在約180人がファシリテーターに認定されている。

受講生で、富山県東部教育事務所に勤める寺島紀子さん(46)は「ドラマケーションで学んだことを生かして、地元の生徒たちに友達の気持ちを受け止める力を植え付けたい」と期待を込める。